

令和5年度第1回刈谷市地域福祉計画懇話会 議事録

1 日時 令和5年10月5日(木) 10:00~11:30

2 場所 刈谷市役所1階101会議室A・B

3 委員(敬称略)

【出席者】

団体等名	役職等	氏名	備考
愛知教育大学	准教授	佐野 真紀	会長
刈谷市社会福祉協議会	会長	杉浦 芳一	
刈谷市民生委員・児童委員連絡協議会	会長	中村 祐子	
刈谷市いきいきクラブ連合会	副会長	早川 清巳	
刈谷市子ども会育成連絡協議会	専務理事	永田 美登里	
刈谷市身体障害者福祉協会	会長	石川 恵美子	
南部地区社会福祉協議会	会長	羽谷 周治	会長職務代理者
中部地区社会福祉協議会	会長	面高 俊文	
刈谷市民ボランティア活動センター	センター長	米田 正寛	
刈谷市立刈谷特別支援学校	校長	薬丸 貴之	
刈谷市民	公募	塚本 裕章	
刈谷市民	公募	水谷 さわ子	
刈谷市役所福祉健康部	部長	加藤 雄三	

【欠席者】

団体等名	役職等	氏名	備考
刈谷市自治連合会	会長	深谷 康生	
刈谷市ボランティア連絡協議会	顧問	富田 宜弘	
子育てネットワーク刈谷「エンゼル」	代表	箕浦 ひろみ	
北部地区社会福祉協議会ハートの会	会長	大矢 睦子	
刈谷市赤十字奉仕団	副委員長	加藤 裕子	

【事務局】

所属	補職名	氏名
福祉健康部	政策監	岩見 真人
福祉健康部福祉総務課	福祉調整監兼課長	杉浦 隆司

福祉健康部福祉総務課	課長補佐	中村 智
福祉健康部福祉総務課総務係	係長	川井 武
福祉健康部福祉総務課総務係	主任主査	金原 綾
社会福祉協議会総務課	課長	加藤 謙司
社会福祉協議会総務課	課長補佐	二井 久枝
社会福祉協議会総務課	総務係長	磯村 潤
社会福祉協議会事業推進課	事業係長	川口 剛史
社会福祉協議会生活支援課	課長補佐兼相談支援係長	神谷 節子

4 議題

- (1) 第4次刈谷市地域福祉計画の進捗について 資料1 ～ 資料3
- (2) 第5次刈谷市地域福祉計画の策定について 資料4 ～ 資料8
- ア スケジュールについて
- イ 地域福祉に関する市民意識調査について
- (3) その他

5 意見・質疑等

【議題1】 第4次刈谷市地域福祉計画の進捗について

※資料1～3を事務局説明

○ 会長

ただいまの説明について、質問はあるか。

資料2の18ページ、118番の「ひきこもりに関する相談支援」において、子ども・若者の居場所を10月に開設したとあるが、今年の10月でよいか。

○ 事務局

令和4年10月からである。

○ 会長

(委員からの意見無し) また後ほど質問等を受け付けることとし、議題2に移る。

【議題2】 第5次刈谷市地域福祉計画の策定について

※資料4～8を事務局説明

○ 会長

ただいまの説明についての意見、質問があるか。市民意識調査については、みんなが読んで分かる内容となっているか、そのような視点で見ていただくとよいかと思う。

○ 委員 A

アンケートの対象は、18 歳以上の市民 2,500 人、若年者 1,000 人となっているが、どのように選定されているのか。また、過去に実施したアンケートの有効回答率とその基準は。

○ 事務局

選定方法は、10 月 1 日現在の住民基本台帳から無作為抽出を行っている。前回の回収率は市民 61.4%、若年者 56.0%あり、有効回答は調査項目ごとに判断しており、有効回答率は項目ごとに異なる。

○ 委員 A

データ収集後の分析が大事である。属性によってしっかりセグメントして結果を抽出し、有効な分析にしていきたい。

○ 委員 B

若年者 1,000 人となっているが、若年層を厚く選んだ理由は。

○ 事務局

前回の第 3 次計画策定時の調査でも 1,000 人にアンケートを実施している。若年層の地域福祉に関する意識を確認するため、一部中学 3 年生も含まれるが、基本的には義務教育を終えた方々の意見を聞き、計画に反映させたいと考えている。

○ 委員 B

自治会長や民生委員・児童委員は、地域福祉について意識の高い方であるので、意見を聞くのは非常に重要であるが、全員に調査するのか。

○ 事務局

自治会長及び民生委員・児童委員は、全数調査を実施する。

○ 委員 C

計画の考え方や基本方針はそのとおりだと思う。議題 1 に戻るが、資料 2 の 10 ページ、62 番の「地区社協及び福祉委員会の活動・設立支援」に関しては、南部地区社会福祉協議会や福祉委員会で活動する中で、まさしく誠心誠意協力いただいているところである。社協の担当者などのサポートに感謝している。

27 ページの 176 番にある「成年後見支援センター」について、相談件数は 128 件、申立手続き支援 6 件とあるが、支援の内容は。

○ 事務局

成年後見支援センターの職員が相談を受け付けている。家族の方からの相談が多く、親が高齢になり、認知症になる前に話を進めていきたいという思いがある。成年後見制度を利用した方がよいか相談があった場合に、本人や家族とも話をした上で法的手続きに進んでいく。その中で、

令和4年度において実際に申立手続き支援をしたのが6件であった。

○ 委員C

昨年度に退任するまで民生委員として活動してきた。資料3の民生委員・児童委員の相談・支援件数について、先ほど事務局からコロナの影響で活動等が縮小されたことにより実績が目標値に達しなかったと説明があったが、コロナ禍により3年間、民生委員としての活動ができず本当に苦しい思いをしてきた。この間、市民との橋渡しができなかったことが心残りである。皆様にご理解いただければと思っている。

○ 会長

皆様の活動の中で地域の課題がいろいろと見えてきていることがあると思う。桜地区では、福祉のまちづくりに関する宣言をされていると聞いており、そのような活動が徐々に地域に広まっていけばよいと思う。

○ 委員D

市民意識調査について、高齢者に関する項目が多いため、いきいきクラブも調査対象にし、当事者はどう考えているか意見を聞いてはどうか。

○ 事務局

市民意識調査は高齢者も対象に含めて実施している。市民意識調査のほかに実施する団体ヒアリングにご協力いただき、意見を頂ければと考えている。団体ヒアリングは、11月頃に団体向けに調査票を送付し、その回答を基にいくつかの団体に対してヒアリングを実施する予定である。調査対象は、障害者に関連する団体、子育てに関する団体、地域包括支援センターなどの高齢者に関する団体、防災、多文化共生の団体、事業所内のボランティアグループ、学習支援の団体などであり、ボランティア団体やNPO法人などに幅広く意見を伺う予定である。

○ 委員E

議題1の資料2について、28ページの181番「防災・福祉に関する相互研修等の実施」について、障害のある人等の避難を考慮した地区避難所開設訓練を実施したとあるが、実施した地区はどこか。

○ 事務局

地域で防災訓練を実施する中で、一部の方に声かけをし、ご参加いただいていると聞いている。先日も刈谷東中学校で実施した防災訓練において車椅子の方に参加していただいている。市においても、積極的に障害のある方等も含めて地域の皆様が参加できる防災訓練を実施していただきたいと考えており、啓発を進めていく。

○ 委員E

身体障害者福祉協会では、防災に関する勉強会に取り組んでいる。こうした活動を活発にしていきたい。

○ 委員 A

中部地区の防災連絡会のメンバーでもあるので補足する。11月26日に中部地区全域で避難所開設訓練を予定している。要支援者の避難訓練を計画している地区がいくつかある。今まで協力いただける何人かを避難所まで連れていくシミュレーションを行ったことがあるが、広く要支援者に声をかけ、多くの対象者を避難所まで支援しながら誘導するという本格的な訓練は今年11月が初めてになると思う。

○ 委員 F

資料3の基本目標2にある民生委員・児童委員による相談・支援件数について、どのような相談が多いのか。また、令和3年度から4年度にかけて200件近く増えているが、増えた相談内容は何か、わかる範囲で教えてほしい。

○ 事務局

目標値の設定は令和元年度の2,035件を基準にして、そこから徐々に伸びていくことを想定していた。しかし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、外出を控えることとなり、特に民生委員・児童委員は単身高齢者の自宅に訪問することが主な活動である中で、感染防止のため訪問活動を控え電話などでの対応をとりながら活動を続けていただいていた。令和4年度はそれが緩和されて、少しずつ訪問を再開し状況確認等を行っていただいた結果、相談・支援件数が伸びている。新型コロナなどにより民生委員や地域の活動が減り高齢者等と地域の関りが薄れてしまったため、その部分の不安についての相談が多かったと思われる。

○ 委員 G

刈谷市は市のサービスが充実しており、市民だよりなどで広報されているサービスに関する相談が多く、例えば、緊急通報サービスのほか見守り安心機器貸与の申込み相談も多い。それはひとり暮らしの高齢者などを対象に、屋内に設置する人感センサーなどを貸し出すサービスで、センサーの感知による生存確認のほかコールセンターを通じて救急車を呼ぶこともでき、皆さんの心配を安心に変えるサービスとなっている。こうしたサービスをお知らせして、取付までできるよう申込みなどの支援をしている。また、スーパーやコンビニの閉店などにより、買い物に困るという相談を受けることが多くなっている。その場合は、生協などの宅配を紹介したりしている。

【議題3】 その他

事務局より、第2回は令和6年3月18日の月曜日、10時から101会議室A・Bで開催する旨を説明。

市民意識調査などの結果報告をする予定としている。

○ 委員 A

2点お願いがある。今期から第8次刈谷市総合計画がスタートしている。上位計画である総合計画の中で、福祉に関わる部分が多くあると思うが、どういことを押さえて地域福祉計画に反映させていくのか、与件として示してほしい。

また、5年後の社会の変化を予測して計画を策定すると思うが、刈谷市の人口や産業経済、国の動向など色々な予測の仕方があると思う。地域福祉計画を策定する上で、刈谷市の総合計画が何を前提にしてどのような与件の基に策定されているのか、できる範囲で情報を提供してほしい。

○ 事務局

検討した上で回答させていただく。

○ 会長

全体を通して、意見・質問はあるか。

○ 委員E

資料2の7ページ、47番にある障害福祉ガイドブックは福祉総務課窓口へ行けばもらえるのか。

○ 事務局

お渡しできる。

○ 会長

最近、様々な媒体が紙でなくWebに代わってきているが、視覚障害の方にとっては案外見にくかったりする。情報へのアクセスはWebの方がスピーディーに広がるが、そうでない面も残していただきたい。

○ 委員H

防災について、特別支援学校でも避難訓練を実施している。医療的ケアを必要とする子どもたちがたくさんおり、その中には人工呼吸器を使用している生徒も複数名いる。もしものケースを想定して避難訓練を行うが、福祉避難所へ避難することを考えると、非常用電源の確保が限られているのではないかと考えている。子どもたちの命に直接関わることなので、万一のことを想定し、順次、非常用電源の確保などについて整備していただきたい。

○ 事務局

現在、市内の福祉避難所13か所全てに非常用電源としてカセットガスボンベ式の発電機を備蓄しており、非常時において生命を維持するために電源が必要な方が使用できるよう備蓄品の配備を進めている。今後も拡充を図っていきたいと考えている。

○ 会長

総合計画でも福祉分野の部会と教育分野の部会は分かれていて、行政の仕組み上仕方ないかもしれないが、この間にどうしても壁がある。暮らしの場をどうしていくのか、その中でみんながどう関わっていくのかが大事である。地域福祉というところで、医療的ケアを必要とする者、高齢者、外国籍の子どもなど誰もが地域の中で自分らしく生きていける雰囲気醸成し、意識を高める働きかけができればと思っている。

以上をもって令和5年度第1回刈谷市地域福祉計画懇話会を終了する。